



CQM(超短期経済予測モデル)

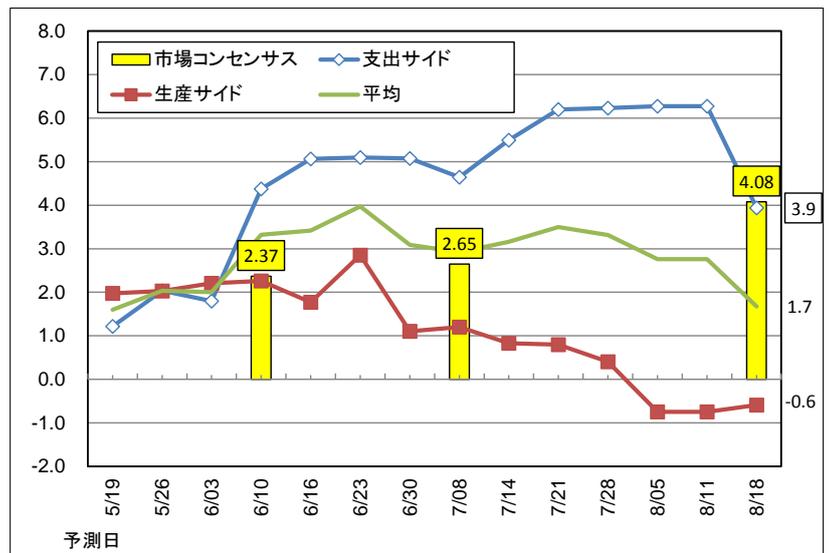
稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年8月18日)

## ポイント

- ▶今 GDP1 次速報値によれば、4-6 月期実質 GDP 成長率は前期比年率-6.8%と大幅なマイナス成長となった。消費増税の影響の大きさを確認した結果といえよう。
- ▶過去の成長率が遡及改定されたため、2013 年 10-12 月期と 14 年 1-3 月期の GDP が下方修正された。1-3 月期は駆け込み需要の影響で拡大したが、4-6 月期はその反動で大幅縮小したため、結果、足下は昨年 10-12 月の水準を幾分下回っている。
- ▶4-6 月期の超短期モデル最終予測は実績とほぼピンポイントの結果となった。予測動態を振り返ると、超短期予測は市場コンセンサスより 1 ヶ月早く正確に予測した。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+3.9%と予測。先週の予測から下方修正された。7-9 月期は、内需が拡大に転じ、純輸出は引き続き拡大する。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014 年 7-9 月期 (%、前期比年率換算)



### <7-9 月期の実質成長率は前期比年率+4.0%程度>

8月13日発表のGDP1次速報値によれば、4-6月期実質GDP成長率は前期比年率-6.8%と大幅なマイナス成長となった。消費増税の影響の大きさを確認した結果といえよう。市場コンセンサス(ESPフォーキャスト8月調査：同-6.81%)は実績と同じとなった。

過去の成長率が遡及改定されたため、2013年10-12月期は前期比年率-0.2%とマイナス成長に、14年1-3月期も同+6.1%へ下方修正された。実質GDPは、1-3月期は駆け込み需要の影響で拡大したが、4-6月期はその反動で大幅縮小したため、結果、足下は昨年10-12月の水準を幾分下回っている。

4-6月期の超短期モデル最終予測は、支出サイドが前期比年率-6.9%、生産サイドが同-7.2%、平均同-7.0%となった。予測(支出サイド)は実績とほぼピンポイントの結果となった。予測動態を振り返ると、1-3月期GDP1次速報値が発表された最初の週(5/19)では、4-6月期の成長率を-4.6%と予測した(コンセンサス：-3.80%)。以降、超短期予測は下方トレンドを示し、7月8日の平均予測は-7%となった。この時点でのコンセンサスは-4.90%で、増税後の落ち込み幅の見通しが甘かったといえよう。以降、超短期モデルは最終週まで約-7%のマイナス成長予測を維持した。コンセンサスは最終予測時点でこそ-6.81%となったが、超短期予測はそれより1カ月早く-7%成長を示していた。

今週(8/18)の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+1.0%、同年率+3.9%と予測。先週の予測(+6.3%)から下方修正された。7-9月期は、内需が拡大に転じ(前期比+0.9%)、純輸出は引き続き拡大する(前期比+0.1%)。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690